

科目名	環境分析学		英文表記	Environmental Analysis		平成23年3月18日	
科目コード	4407						
教員名：	平良淳誠					作成	
技術職員名：							
対象学科／専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
生物資源工学科	4年	必	履修	2単位	講義	通年	
目標及び評価方法	目標項目			評価方法及びその割合			
	①地球レベル及び身近な環境における化学物質を体系的に理解し、社会の要求や課題に関する情報を収集することができる。			①環境中の化学物質に関する調査を行い、提出したレポートと定期試験の結果から評価する。(20%)			
	②環境分析に関する方法論の基礎及び複合的な専門知識を学ぶことができる。			②環境分析に関する方法論に関する調査を行い、提出したレポートと定期試験の結果から評価する。(40%)			
	③環境分析機器の基礎及び複合的な専門知識を習得することができる。			③環境試料の分析を行い、提出したレポートから技術習得の到達度の評価と定期試験の結果から総合評価する。(40%)			
			レポートと定期試験の結果の総合評価で、理解度の到達度を評価する。定期試験は前期と後期の中間試験と期末試験の計4回行う。				
高専目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	生物資源工学	
	○		◎	△	JABEEプログラム教育目標	A-2、A-3、B1	
授業概要、方針、履修上の注意	1. 地球レベル及び身近な環境に関与している化学物質を体系的に理解する。 2. 環境分析法の基礎を学び、また演習問題を取り入れることで、その理解を高め実際の分析に必要な知識を身につける。 3. 実際の試料で環境分析を行い、環境分析技術の実践的基礎を学ぶ。 4. 実験を行うに当たっては、原則として白衣を着用する。 5. 劇薬品の取扱いには、原則として保護メガネ及び手袋を着用するなど安全には十分に気をつける。						
教科書・教材	教材：教員自作のテキスト及びパワーポイントなどのプレゼンテーション資料 参考図書：環境問題の基本がわかる本（秀和システム）、機器分析（産業図書）、水質調査法（丸善）、浄水試験方法（日本水道協会）。他にも参考図書を探す場合のキーワード：分析化学、環境分析、機器分析						
授 業 計 画							
回次	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			予 習 項 目	
1	授業の概要 地球環境生態	2	環境分析学の概要と、到達目標を把握する。			環境分析学の重要性とは	
2	化学物質循環と環境問題 ・大気と室内環境	2	化学物質循環を学び環境分析の必要性を理解する。 大気汚染物質の循環と揮発性有機化合物を理解する。			地球環境について	
3	・水質と飲料水	2	水質汚染物質の循環と飲料水について理解する。			化学物質の循環について	
4	・土壌	2	環境汚染物質の土壌蓄積について理解する。			土壌汚染の事例について	
5	環境基準値	2	大気、水質、土壌の化学物質の環境基準値を調べ、理解する。			環境基準値とは	
6	環境分析実験I(試料調製法) 試料調製(濃度)	2	標準試料を調製し、化学物質の環境濃度を理解する。				
7	試料調製(有効数字)	2	環境分析における数値(有効数字)の取り扱いを演習問題で理解する。			前期中間試験範囲のまとめ	
8	前期中間試験	2					
9	試料調製(定量)	2	標準試料の調製に必要な濃度計算を演習問題で理解する。			濃度演習問題	

10	環境分析実験II (大気汚染物質の測定)	2	検知管法による車排気ガスのNOx等の測定をする。	
11	データのまとめ	2	測定結果を基にデータの解析とレポートの作成をする。	実験結果のまとめ
12	レポートの書き方	2	検知管法による車排気ガスのNOx等の測定をする。	
13	機器分析法 カラムクロマトグラフィー ① HPLC の原理	2	HPLCの原理と解析法を学ぶ。	クロマトグラフィーについて
14	②GCの原理	2	GCの原理と解析法を学ぶ。	GCの原理について
15	③MSの原理	2	MSの原理と解析法を学ぶ。	MSの原理について
期末	前期末試験	[1]		
16	原子吸光光度計 ④ICPの原理	2	原子吸光光度計・ICPの原理と測定法を学ぶ。	原子吸光光度計・ICPの原理について
17	⑤分光光度計の原理	2	分光光度計の原理と測定法を学ぶ。	分光光度計の原理について
18	環境分析実験III(汚水の分析) ①アンモニア態窒素の測定	2	アンモニア態窒素測定の試料調整法と検量線の作成法を学ぶ	検量線について
19	I②アンモニア態窒素の測定	2	測定結果と環境基準値を比較することで理解を深める。	実験結果のまとめ
20	環境分析実験IV(水質分析)	2	浄水場の水処理過程における試料を使い分析法を学ぶ。原水と処理過程水及び飲料水を比較する。	水処理法について
21	・一般細菌の測定①	2	培地の調製と細菌試験法を学ぶ。	細菌試験法について
22	・一般細菌の測定②	2	細菌数をカウントし、原水と飲料水の違いを理解する。	実験結果のまとめ
23	後期中間試験	2		
24	・外観、水温、臭気	2	官能評価法を学ぶ。	官能評価法について
25	・塩素要求量	2	塩素要求量を理解し、測定する。	塩素要求量について
26	・濁度	2	透視比濁法を理解し、濁度を測定する。	濁度測定法について
27	・pH	2	pHメーターの調整を学び、測定をする	pHメーターについて
28	・総硬度:EDTA滴定①	2	水(原水、浄水)の総硬度を測定する。	総硬度法の原理について
29	・総硬度:EDTA滴定②	2	生活水、ミネラルウォーターの総硬度を測定する。	実験結果のまとめ
30	環境分析実験IVのまとめ	2	レポートの作成法の指導をする。	レポートの作成
期末	後期末試験	[1]		
学習時間合計		60	実時間	50
学修単位における自学自習時間の保証 (レポート頻度など) 記入不要→この科目は履修形態のため、この欄の記入は不要				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(50分=1、100分=2)